

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. 浜松学院大学の建学の精神

浜松学院大学の開学の礎は、昭和8年廿日出彪（はつかで ひろし）によって創設された法人組織の興誠学園にある。その建学精神は、「興誠」即ち“誠を興す”ことである。その趣旨は、「誠を興し、誠に行動し、誠を普くする」ことであり、誠による徳の教育である。「興誠」の二文字は、儒教の教えを記した中国の古典「中庸」の教えを基にしている。

興誠学園は高等教育の充実に寄与することを旨として、昭和26年4月には「浜松短期大学」を開校した。さらに、平成16年4月に「浜松学院大学（現代コミュニケーション学部）」を開校した。同時に「浜松短期大学」を「浜松学院大学短期大学部」に改称した。

大学の教育理念は、「高潔なる倫理観に立って、他を思いやることができる真に豊かな人間性を基礎に、変化に対応できる想像力と実践力を身につけた職業人を育成する」ことである。いわば実学を旨とする高等教育機関を目指している。

2. 浜松学院大学が目指す大学像

①責任ある自己実現と社会貢献の人づくり

産業や経済構造の変化と情報化や国際化が進む中であっても、本学は、真に豊かで成熟した民主主義社会を志向する人材を育成することを目指す。そのために学生が責任ある自己実現を図り、社会貢献の力を高めることができる学びと実践練磨の場を提供する。

②建学の精神である「誠を興す」を受け継ぎ、専門的実務能力「能く生きる」と共生協調能力「善く生きる」を兼備した人材を育成する

専門的実務能力「能く生きる」とは、高い専門性と逆境を乗り越えながら最後までやり抜く行動力と実践力である。共生協調能力「善く生きる」とは、他者との協調性や自己や他者との対話などのコミュニケーション能力のことである。

この理念を具現化するためには、地域社会と提携して、一人ひとりの学生が能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を継続して行い、深い学びを積み上げることが必要である。